

地域からはじめよう！

環境出前講座

を開催しませんか？



「温暖化について詳しく知りたい」「家庭でも取り組める活動を紹介してほしい」といったご要望がございましたら、各地域の推進員に出前講座の開催を依頼することができます。楽しい教材に子供たちも大喜び！みなさんも環境講座を開いてみませんか？

無料

主婦向け 家庭でできる省エネ講座

エアコンやテレビ、冷蔵庫など、講座を受けてすぐに実践できる省エネ講座。家計の節約にもなりますよ。



子ども向け 環境学習講座でエコまなぼ

ちょっとぴり難しい省エネも、ゲームを通して楽しく学べます。省エネは子どもたちから率先してする時代へ。

工作編 大人も子どもも楽しめる エコバッグづくり

新聞紙を再利用して、エコバッグを作る講座。

新聞紙がオシャレなエコバッグに変身しま～す！

その他にも、様々なテーマに対応した講座が実施可能。

<<出前講座開催までの流れ>>

1 出前講座開催の申し込み

センターのホームページ(<http://nccca.jp>)より申込用紙がダウンロードできます。

実施予定日の**1か月前**までに申込書をセンターへ提出してください。

2 センターから各推進員へ連絡・日程調整

学習の時間／原則午前10時～午後5時までの間90分以内

講 師 料／**無料**(講座に必要な材料等を用意していただく場合がございます。)

※曜日、時間等はご相談ください。なお、諸事情によりご希望に添えない場合がございますが、あらかじめご了承ください。

3 出前講座受付確定・実施

出前講座申込者へセンターから実施確定の連絡があり、当日推進員が伺います。



長崎県地球温暖化防止活動推進センター

お問い合わせ

住所：長崎市元船町17-1 公益財団法人ながさき地域政策研究所 内
TEL:095-820-4868 FAX:020-4623-5633 <http://nccca.jp>

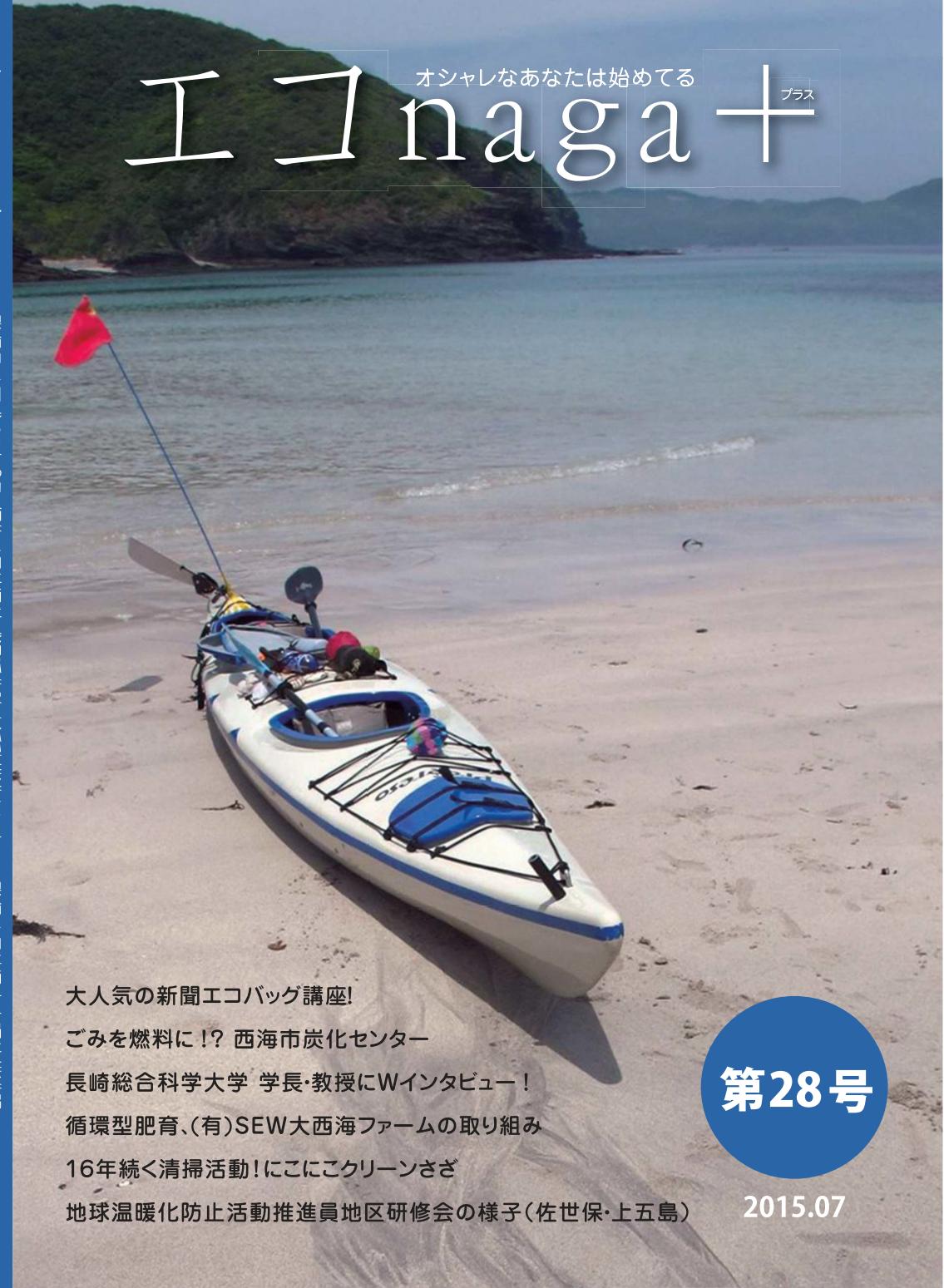
工コnaga+

オシャレなあなたは始めてる

プラス

工コnaga+

発行月／平成27年6月 編集／長崎県地球温暖化防止活動推進センター 発行／長崎県未来環境推進課
〒850-8570 長崎市江戸町2-13 TEL / 095-895-2512 FAX / 095-895-2566



大人気の新聞エコバッグ講座！

ごみを燃料に!? 西海市炭化センター

長崎総合科学大学 学長・教授にWインタビュー！

循環型肥育、(有)SEW大西海ファームの取り組み

16年続く清掃活動！にこにこクリーンさざ

地球温暖化防止活動推進員地区研修会の様子(佐世保・上五島)

第28号

2015.07

エコnaga+

オシャレなあなたは始めてる

プラス

第28号
2015.07

発行月／平成27年6月
編集／長崎県地球温暖化防止活動推進センター
<http://nccca.jp>

「エコnaga+」とは…

「エコnaga+」は「長崎県地球温暖化防止活動推進センター」が制作している環境冊子です。長崎県未来環境推進課より発行され、県民の環境への意識を啓発するための内容となっています。環境の最新情報や環境コラム、また県内企業や個人、団体の環境の取り組みなども紹介し、楽しく読める盛りだくさんの内容となっています。発行：4回／年

配布先：各行政機関等（当センターへお尋ねください）

長崎県地球温暖化防止活動推進センターとは…

「地球温暖化防止活動推進センター」は、各都道府県に設置されており、長崎県の当センターもその中のひとつです。地球温暖化防止活動に関する「啓発・広報活動」、「活動支援」、「調査」などをやっており、その一環として、「エコnaga+」で情報を発信しています。

※本誌内では、〈センター〉と表記

長崎県地球温暖化防止活動推進員とは…

「長崎県地球温暖化防止活動推進員」とは、地球温暖化防止のために自ら省エネルギー、省資源に取り組むとともに、地域住民の方々へ温暖化に関する情報の提供と温暖化防止活動の普及を進めてくださる方々です。県から委嘱を受け2年間の任期で推進活動を実施します。

※本誌内では、〈推進員〉と表記

発行／長崎県未来環境推進課
〒850-8570 長崎市江戸町2-13
TEL／095-895-2512
FAX／095-895-2566



CONTENTS

目 次

01. 学習会実施の模様
02. 推進員インタビュー
03. エコクイズ・エコワード
04. ごみを燃料に変える！
西海市の取組
05. 地域循環でおいしいお肉を提供！
(有)SEW大西海ファーム
06. 長崎総合科学大学 木下学長に聞く！
海洋再生エネルギーの今
07. 長崎総合科学大学 田中教授に聞く！
エコドライブ推進事業2014
振り返って
08. 環境省地域環境美化功績者
にこにこクリーンさぎ
09. 楽しく活動しています！
佐世保地区研修会
10. エコバッグならどこにも負けない！
上五島地区研修会
11. 長崎県からのお知らせ

表紙の写真は対馬の海の風景
【撮影協力】対馬地区推進員
カヤック提供……上野芳喜
撮影……鍵本妙子

※環境学習会の申込については冊子の裏表紙をご覧ください。

環境学習会の申込数は例年より激増! とにかく人気の「新聞紙エコバッグ講座」

県央地区

県央地区では、昨年作成した紙芝居「さかなになったりょうた君」を使って紙芝居実演を取り入れた学習会を実施しました。



- ①地球温暖化についてのお話
- ②紙芝居「さかなになったりょうた君」
- ③新聞紙エコバッグ講座

という流れで講座を実施しました。



紙芝居で川のごみについて考える！

県北地区

県北地区では、すぐに実践できる省エネのお話とエコバッグ講座を併せて行いました。



省エネ講座の様子

新聞紙エコバッグ作り講座



推進員も一緒にエコバッグを教えます

新推進員紹介

歌手・水前寺清子さんの歌を披露する森さん

長崎県地球温暖化防止活動

新推進員紹介

今回は、上五島地区推進員のリーダー、森絹代さんをご紹介します。

昨年度から推進員として活動されています。

上五島地区

森
Mori
絹代
Kinuyo



森さんの環境活動

海に囲まれた上五島で暮らす森さんは、ビーチクリーン活動等、地域の環境美化活動に積極的に参加しています。また、毎日自転車通勤をしていて、エコで健康的な生活を送っています。「エコと健康はつながる」を信念に、今日も走ります。



手作り紙芝居

平成26年度、推進員とセンターが共に作成した環境紙芝居。上五島地区では、森さんの考えたストーリーに、息子さんがイラストを描いた紙芝居が完成しました。早く皆さんにご紹介したいですね。



実は…こんな人！

平成26年度の全体研修会の発表会で「吉本興業のオーディションを受けたことがあります」と告白し、当時歌った歌を披露した森さん。それがきっかけとなり、推進員の中で一躍人気者になりました。普段は保育園の先生をしている森さんは、61歳という年齢にもかかわらず、環境活動にトライアスロンにひた走る活動的な推進員です。

→上五島地区的様子は12頁にも掲載 01

ごみを燃料にするという発想！

西海市炭化センターが7月から運転開始！
市内から排出される可燃ごみや下水汚泥、屎尿汚泥を受け入れ、炭化燃料を製造する（炭化方式）最新施設がいよいよ稼動します！

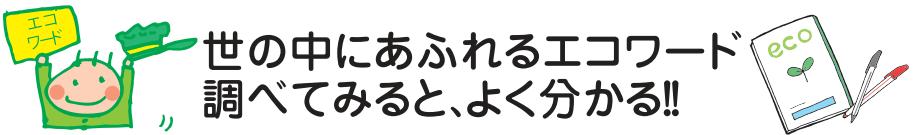
あら、びっくり！
ごみが燃料に！

最新施設でCO₂削減！

西海市炭化センター（炭化施設）



西海市市民環境部
環境政策課
山脇清隆課長



海洋エネルギー

エネルギー資源のうち、海洋から得られるエネルギーを「海洋エネルギー」といいます。波力・潮力・海流・潮流を利用する方法や、海水の温度差によって熱を取り出す方法、塩分の濃度の違いによる発電等、発電方式は様々あります。近年、周りを海に囲まれた日本の海洋エネルギーへの期待は高まっています。

→関連記事は6~7頁

炭化燃料

「炭化」とは、空気のない状態で原料を加熱・乾燥し、純度の高い固体炭素を作る事です。原料には可燃ゴミや家畜糞等、様々なものを利用することができます。炭化することで、腐敗・腐臭が起こらず、長期保存が可能となり、熱源として利用されます。また、石炭との混用が可能となり、石炭の利用削減につながります。

→関連記事は3頁



あなたはどれだけ知っている？ みんなで挑戦エコクイズ!!

エコドライブ

記事の中で、長崎総合科学大学の田中先生は、エコドライブを行う際に、大事だと実感したものは何でしょうか。

- A. 機器の性能
- B. 人間の意識
- C. 燃費のグラフ

→関連記事は8~9頁

未利用資源

SEW大西海ファームでは、豚に食べさせる液状飼料に何を混ぜて、未利用資源の活用をしているでしょうか。

- A. 豆腐工場からの大豆のかす
- B. ビールのかす
- C. 焼酎かすやゼリーの廃シロップ

→関連記事は4~5頁



まずは地元の理解から。

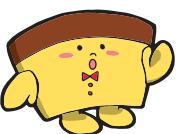
ごみ処理施設は、どうしても敬遠されがちな施設。まずは地元の方のご理解を得ることが第1と言ふことで、説明会を開き、安心安全な施設であることを説明したり、視察をおこなったり、不安要素を少しでも取り除くことに努めたそうです。その結果、地元の方々にご理解を頂き、施設の整備を行うことができました。

◀製造された炭化燃料(大きさは1cmほどの粒状)



市民と一緒に……。

そのほか、西海市では、市民と一緒に毎年「空き缶回収キャンペーン」「海岸清掃」などを行っています。自然に恵まれた西海市の環境を守るためにも、市民と行政が一緒に活動を継続することが大切ですね。西海市のみなさん、これからも頑張ってください！



●炭化方式とは、「ごみを燃料にする画期的な方法です！」

●より良い施設に！

このセンターは、循環型社会・低炭素社会の実現を目指しています。「これまでよりもCO₂の削減に寄与する」と考えます。」と西海市環境政策課の山脇課長も仰います。「また、どうしても再資源化できないごみは、最終的に埋め立てますが、その量もこれまでよりも大幅に減らすことができる、より安定的に処理することになりました。」と、誇らしげに説明してくださいました。

「このセンターは、市民の環境学習の場としても役立つのではと思っていました。ぜひ、知つてもうつてリサイクル率の向上に努めたいですね」と明るく結んでもらいました。

西海市炭化センターが7月から運転開始！

市内から排出される可燃ごみや下水汚泥、屎尿汚泥を受け入れ、炭化燃料を製造する（炭化方式）最新施設がいよいよ稼動します！



食品工場から出る未利用材を有効活用!

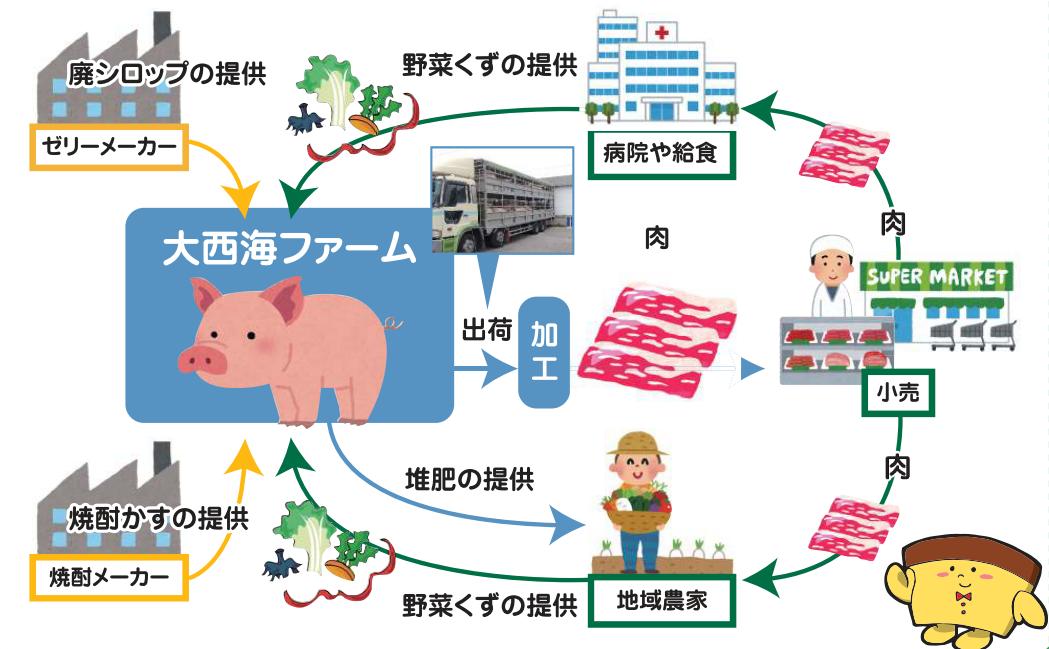
(有)SEW大西海ファーム



平成25年度にながさき環境県民会議優秀団体となった(有)SEW大西海ファーム
その後も変わりなく、おいしいお肉を地域に提供し続けています!

地域循環でおいしいお肉を提供!

リキッドフィーディング(液状飼料)を取り入れている大西海ファームでは、アミノ酸が豊富な焼酎かすと大手果実ゼリーメーカーの「たらみ」の廃シロップを混ぜた栄養バランスの高い液状飼料を使用しています。



平成25年に「ながさき環境県民会議優秀団体」として表彰された大西海ファーム。その後の取組を尋ねるため、西海市にある大きな豚舎にお邪魔しました!

そもそも飼料価格が高騰したのがきっかけで始めた液状飼料「リキッドフィーディング」。豚も乾燥した餌より柔らかいおかゆ状の餌のほうを好んで食べるので、この「リキッドフィーディング」を導入することになりました。導入当初はその配合にとてもご苦労があったと言います。豚たちの好みに合わなかったため、餌を食べずに瘦せてしまったり、餌を液状にすることで供給配管内に飼料が付着。そこに生えたカビのために豚が病気になり、多くの豚が死んでしまうという事故がありました。その教訓から「衛生管理の重要性は強く意識しています。何かあつたら直ぐに対処できるようにと常に工具を持ち歩いて管理しています」と仰る田口さん。その決意の強さをとても感じました。

平成25年ながさき環境県民会議にて大西海ファームが表彰された取組は、未利用資源の活用です。例えば、他の工場で作っている焼酎。これまで捨てていた焼酎の搾りかすを餌として活用しようと直接交渉し、焼酎工場がこれに賛同。結果、焼酎工場では廃棄物が激減しました。そしてゼリー商品で全国的に有名な「たらみ」。これまで果物シロップ漬けに使ったあとのシロップは捨ててしまっていたそうですが、これを捨てることなく、豚の液状肥料の混合物として混ぜれば、甘くて美味しい餌として活用出来ることが分かり、これも餌として活用することにしました。「たらみさんのシロップ漬の果物は、季節によって異なります。冬場はみかん。初夏は桃などがあり、豚たちも喜んで食べているようです。実際私も舐めてみたら美味しいかったです!」と笑いながら応える田口さん。豚たちも美味しい餌が食べられて、幸せですね。

また、「豚舎の環境も変わりましたね。これまで餌は粉末状のものだったので、豚舎内は餌の粉が舞い、常にホコリばつたですし、食べ残した飼料を狙いゴキブリやねず

みが出てその駆除も大変でした。液状に変えてからはホコリばさはほとんどなくなり、また餌の食べ残しも減ったため、ネズミが激減。とても衛生的な豚舎になりました。それと以前より餌代を一割程カットすることができたのも嬉しいですね」と田口さん。実際私たちも豚舎に入れていただけでしたが、臭いもホコリばさもほとんど感じることがありませんでした。「リキッドフィーディング」、恐るべし…ですね。



常備されている
整備道具

さて、その「リキッドフィーディング」を作っている作業場も見せていただきました。決して大きい設備ではありませんが、ほとんどオートメーション化されていて、一目で飼料の配合割合などが分かるようになっています。「飼料の原材料には、もちろん気を使っていますが、その餌を流す配管は豚たちにとって大切な命綱なので、そのメンテナンスにもとても気を使っています。今は遠隔で監視が出来るので、どこに行くにもパソコン持参です。先日はせっかく夢の国ディズニーランドに行ったのに、豚舎が気になって夢にはハマれませんでした(笑)」と、大変な中にも達甲斐を感じている様子でした。



そして、気になるこの豚たちのお肉ですが、市場の評価はとても高いと言います。「一般的なものと比べると筋肉繊維が細かいので、肉質が柔らかいのが特徴です。消費者の方にも柔らかくて臭みがないと評判です。もっと多くの方に大西海SPF豚を食べてもらえるように、今後も美味しいお肉を食卓に届けます!」と、目を輝かせて話す田口さん。お忙しい中、終始笑顔で取材に対応していただきました。ありがとうございました!

(有)SEW大西海ファーム
設立年数:16年

収容頭数:母豚1300頭、雄豚16頭、子豚・肥育16000頭
年間出荷数:29000頭、平成27年は31000頭出荷予定

長崎総合科学大学 木下健学長

聞き手 長崎県地球温暖化防止活動推進センター
センター長 菊森淳文

〈木下健学長プロフィール〉

長崎総合科学大学の木下健学長は、学生時代、東京大学工学部で船舶工学を学び、その後東京大学の工学博士や横浜国立大学の講師を経て、1983年に英国エジンバラ大学、ブルネル大学の客員研究員を兼任。長きにわたり海洋技術の研究を行ってきた。その後、東京大学生産技術研究所教授を経て、日本海洋工学会の会長や海洋エネルギー資源利用推進機構(OEAJ)会長等を兼任。平成27年4月より長崎総合科学大学の学長に赴任した。



長崎は海洋研究ができる理想の場所

〈センター長〉海洋再生可能エネルギーの分野で大いに活躍されている学長ですが、海との距離が近い長崎の印象について、また長崎に来られたきっかけについて教えてください。

〈木下学長〉学生時代はボート部に所属しており、もともと海で遊ぶことが好きで船舶工学という学問を探し始めました。「海は人間の生業や楽しみがあったうえで美しいといけない」という思いを持っていました。そうした意味で、海洋研究ができる場所として40年近く考えていた理想の場所であると感じます。

〈センター長〉木下学長は1983年にイギリスのエジンバラ大学で研究員として2年間滞在されていますが、その在住経験からわかったことを教えてください。

〈木下学長〉イギリスは世界に先駆けて海洋技術の研究を始めた国で、1983年に喜び勇んで研究のためイギリスへ渡りました。ドイツが環境先進国といわれていますが、再生可能エネルギーの先導者となっているのはイギリスです。海での実験設備を設置・

利用し、学生等の若者を10年間かけて海洋技術研究のリーダーとして育てる仕組みがあります。イギリスはそうした仕組みを作るのが早い国です。

経済合理性を追いかけていた日本は、海に囲まれた海洋国であるにも関わらず、その資源を使いきれていないうことに気がつきました。私は、これからその点を育成する仕組みを作りたいと考えています。



「おいたちの大学」という意識で
大学を育て、発信していきたい。

日本の再生可能エネルギー

〈センター長〉海外と日本の再生可能エネルギーの事情について、学長の考え方を教えてください。また、日本の海洋再生可能エネルギーのポテンシャルについて教えていただければと思います。

〈木下学長〉まず悪い面から言えば、日本の再生可能エネルギーへの取組は世界に比べて遅れています。世界の再生可能エネルギーでは2030年には30%を目指していることに対し、日本は現在遅れおり、世界の国と差が開いています。遅れた形で孤立化するのは良くないと感じます。世界を再生可能エネルギーでリードしているのはイギリス、ポルトガル、フランス等ですが、フランスについては原子力から得るエネルギー80%のうち、20%を再生可能エネルギーに置き換えることを2年前に政策決定しました。その後、フランスは再生可能エネルギーの中でも風力発電を選択し、さらに海上への設置を決め、原子力発電の会社が主体となって動くなど、政策が決まってから積極的に再生可能エネルギーへの転換の取組を行っています。日本もその点からエネルギーバランスを見直す時期に来ていると思います。

反対に、期待が持てる点としては、海洋工学に関する研究者が長崎にいることです。私は、長崎は新しいものを作っていく場所として一番良い場所だと感じています。新しい技術の研究を進めていき、ゆくゆくはアジア地域への技術移転を行う等、長崎の地場産業の柱として育てられたらと考えています。事業を動かすのは地道な技術力です。少しでも本学の学生が絡んでいいですね。

学長が考える大学の役割

〈センター長〉再生可能エネルギーへの転換だけではなく、視野を広く長崎の未来についても考えていらっしゃる学長が大学にいるということが素晴らしいと思います。

今後、未来を担う学生の教育活動に力を入れていかかると思いますが、木下学長の考える大学の役割とはなんでしょうか？

〈木下学長〉流行っていることを研究するのではなく、20年後、30年後を見据えて必要なことを研究することだと思います。学生にもそういう基礎的な勉強をさせることを目標としています。本学には共通の考えを持っているいらっしゃる先生が多いと思いますので、心強く感じています。

〈センター長〉今後は大学と地域の関係づくりを強化したいとのことです、学長の考えをお聞かせ下さい。

〈木下学長〉大学での人材教育では、今まで以上に良い人材を育成していかなければ良いと考えています。また、東長崎エコタウン事業で、この長崎という場所で何を発信し、何ができるか考えていきたいと思います。特に専門の海洋環境工学的な話には参加していきたいです。

また、これまで地域との取組があまり進んでいなかつたので、これからは特に地元の東長崎地区の方々と連携した取組を行っていきたいと思います。地域の方々と一緒にになって「おいたちの大学」という意識で大学を育て、発信していきたいですね。



長崎総合科学大学 田中義人教授

聞き手 長崎県地球温暖化防止活動推進センター
センター長 菊森淳文

〈田中義人教授プロフィール〉
長崎総合科学大学の工学部工学科電気電子工学
コース所属。副学長。専門分野は電子情報工学、
集積回路システムおよび計測物理學。近年は組込
みシステム、IoT分野も手がける。平成27年度より
環境省エコドライブ推進事業のコンソーシアム
のオブザーバーとしてアドバイス役を務める。また、「次世代エネルギーの地産池消」「環境に優
しく安全・安心なまちづくり」をテーマとした調
査や研究等の支援を行う東長崎エコタウン協議会
の会長にも就任。



エコドライブは、人間の意識でやれる

当センターでは、平成26年度環境省事業「知って学んでまねてみる、エコドライブ推進事業2014」を実施。タクシー協会や印刷組合に所属する企業、その他小売業の企業を対象にエコドライブに参加してもらった。日々エコドライブを意識して運転すると、燃費がどのように変化するか、また行動変容について調査した。調査の結果、これまでエコドライブを行ったことのある車両では平均1.21%、エコドライブを行ったことのない車両では平均3.87%の燃費向上率が確認された。



〈センター長〉昨年度、この事業では田中先生にアドバイザーとして参加していただきました。今回のプロジェクトに参加した感想についてお聞かせください。

〈田中教授〉「結局は人間の意識が大切だと思いました。最新の車はエコドライブをするための機器が付いていて、常に自分の運転を確認しながらエコドライブができます。そのため、最初は機器を付けずにエコドライブを実施して、きちんと結果が出るかどうか疑問を持っていたんです。しかし実際にプロジェクトがスタートしてみると、エコドライブを実践するには、機器に頼らなくても人間の意識で実践できるものだとつくづく思いました。日々、参加者に自分の運転について振り返り記録を付けてもらうことで、燃費向上への効果が意外と高いことがわかりました。意識付けを行えば、特別に何か機器をつけなくてもエコドライブができる、意外でしたが面白いと思いました。」

〈センター長〉参加企業へのフィードバックとして、エコドライブへの取組を3か月に1回実施する等、期間

東長崎エコタウン構想

田中義人教授が取り組んでいる「東長崎エコタウン構想」。低炭素社会に向けた未来型エコタウンをつくり、実証実験を行うことを目的として、「CO₂と廃棄物の発生が少ない町」、「人と自然と技術が共生する町」、「安全で安心して暮らせる町」を目指し、地域の住民、企業、自治体、大学が共同して研究プロジェクトを立ち上げています。



▲東長崎エコタウン構想 イメージ図

を空けて取り組むと効果的との意見を先生から頂いておりましたが、やはり意識付けを定期的に行うほうが良いと思われますか？

〈田中教授〉省エネのために家で使っている電気の状況をグラフなどにして「見える化」したとしても、しばらくは気を付けて見ていますが、慣れると気を付けてチェックしなくなってしまいます。エコドライブも同じように、ずっと継続してやっていると、意識が薄れて、やらなくなってしまいます。説明されていたように、時間を少し空けて、活を入れながら実施する方が、効率的だと思いますよ。

〈センター長〉お話を聞いていて、経済原理も同じだと感じました。物価が高騰すれば一時的に消費は抑えられます、ある程度期間が経つと消費者はそれに慣れて、消費行動は元通りになります。それと同じですね。

〈田中教授〉そうですね。本当に最後は人の意識の問題だと思います。経済も、省エネも、エコドライブも(笑)

〈センター長〉エコドライブ事業を通して、田中先生自身、個人的にエコドライブについて関心を持つようになりましたか？

〈田中教授〉意識して運転するようなりました。私の車も家族で共有して使っているので、燃費が落ちると、ちょっと家族を責めたりしましたね(笑)これは余談ですが、使う人によって燃費の設定を切り替えられる機能があったらいいのになあと思いました。

〈センター長〉今後は事務局として市民への取組の拡大を考えていますが、課題と解決方法について、アドバイスをいただけませんか。会社の職員、家族に絞って行うと把握しやすいというメリットがあるのか、どういう手法のアイデアがあるか教えていただきたいです。

〈田中教授〉参加者にとって、面倒くさくないやり方が一番ではないでしょうか。給油のタイミングでレシートの写真を撮って送信するとか、簡単な手法があるといいですね。それと、楽しみながらできるといいですね。定期的に送っていただいた方には何らかのインセンティブを与えるという設定にしておけば、特に奥様方などは参加してくださるのではないかと思います。

〈センター長〉ありがとうございました。私たちも、市民の皆さんによりエコドライブに参加してもらえるよう、工夫をしてみます。

推進員達は、「伝えるためは自ら勉強」と研修会でブラッシュアップしています!

オリジナルエコバッグ講座と 地域密着型活動の「上五島地区」



推進員 芳賀さん

んでした。

6月9日(火)に行われた上五島地区研修会。当日は朝からあいにくの雨でしたが、推進員4名、行政の方2名、計6名の方が参加しました。

エコバッグ作り講座



エコバッグ作り講座による芳賀さんによる

研修会の中でも特に盛り上がったのが「芳賀さんによるエコバッグ作り講座」です。芳賀さんは普段からエコバッグ作りをしているそうで、突然の講座のお願いにも快く対応して下さいました。研修会当日は、芳賀さんが作ったエコバッグを持ってきて下さり、実際に手に取ると「ちょっとした小物入れに使えそう!」「細々したお菓子も入れられるなあ」など、まるで売り物に触れているようでした。新聞紙とは思えないくらいの頑丈さなので、作り方や工夫からも目が離せません。

今後の展開に期待! ビーチクリーニング活動!

今後上五島地区の大きな活動の一つとして挙げられたのが「ビーチクリーニング活動」です。リーダーの森さんを中心し蛤浜海水浴場でのビーチクリーニング活動の展開を考えているうえで、その活動をより明確にすることが今回の研修会内でのテーマとなりました。内容としては学生をメインとした地域の方々を呼んで、清掃だけでなく、事前にパネルを使い清掃前と清掃後の比較を行ったり、拾ったシーグラスや流木を使用したアート体験を催したりと様々な案が検討されていました。

現在、ビーチクリーニング活動以外にも、「螢の観察ガイド」「段ボールコンポスト」など地域の方々特に子供たちとのエコを考えた活動を行っているそうで、ビーチクリーニング活動もその環となるのが楽しみですね。

→ 思い思いに柄を選び作成したエコバッグ。
今後上五島地区でエコバッグ作りの講座依頼があったときもバッチリですね。

当センター企画局長
松本 敏子

長崎県未来環境推進課
山道 一志 課長補佐

上五島町環境政策課
平田 竹喜 課長

推進員
村田 新平

推進員
田坂 美紀

リーダー推進員
森綱代

推進員
芳賀 佳美

長崎県からのお知らせ

長崎県内在住の方なら
誰でも無料で利用できます!

省エネナビの無料貸し出しを行っています!



電気使用量が一日で分かる!

省エネナビとは?



省エネナビを使って自由研究をやってみよう!



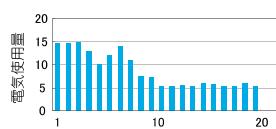
家で使っている家電製品がどのくらい電気を消費しているのか調べてみよう。

自由研究(例)

- テーマ
- 方法
- 結果

家電製品の使い方を変えたらどれくらい節電できるのか?

1. いろんな節電の方法を調べる。
2. 電気使わなかった1週間と、節電をした1週間で電気を使った量や料金を比べる。
1. 実際にやってみたこと
①なるべくエアコンではなく、扇風機を使う。
⋮
2. 電気使用量の比較



節電にご協力お願いします!

期間 7月1日～9月30日の平日(8月13日、14日を除く) 時間帯 9時～20時

電力需要のピーク時間帯(13時～17時)、特に16時台は重点的な節電にご協力をお願いします。

※生活・健康や生産・経済活動に支障のない範囲で可能な限り、ご協力ください。

省エネナビの
詳細はコチラ

長崎県ホームページ

<http://www.pref.nagasaki.jp/object/kenkaranooshirase/oshirase/4467.html>

お問合せ

長崎県環境部未来環境推進課 長崎市江戸町2-13
TEL:095-895-2512 FAX:095-895-2566

